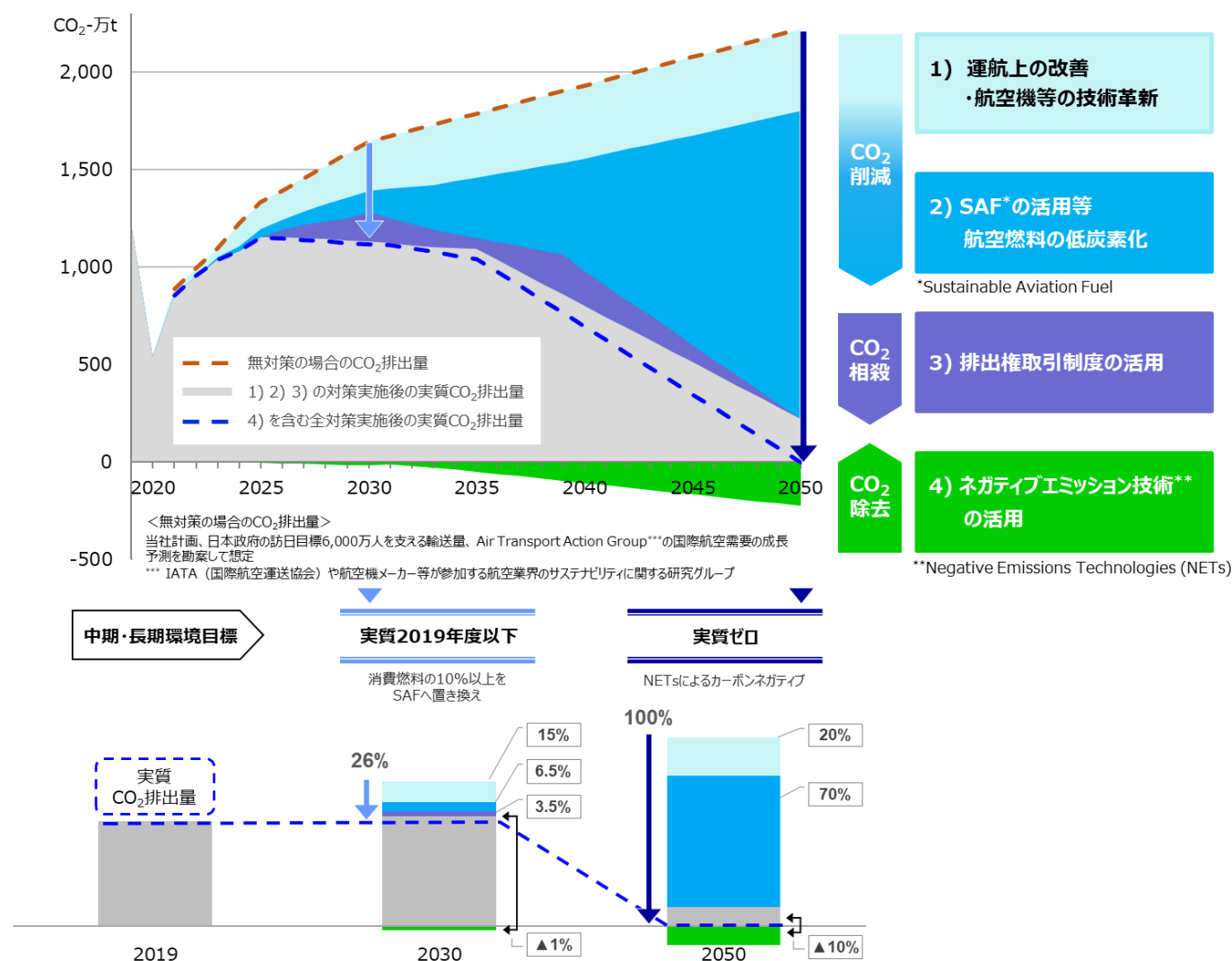


2050 カーボンニュートラル実現に向けたトランジション戦略を策定

- 2030、2050年の環境目標達成および脱炭素社会の実現に向けて、トランジション戦略を策定しました。
- 4つの戦略的アプローチ(運航上の改善・航空機等の技術革新、SAF¹の活用等 航空燃料の低炭素化、排出権取引制度の活用、ネガティブエミッション技術²の活用)により、グループの持続的成長と環境対策の両立を追求します。
- トランジション戦略の実行を目的とした資金調達を行うために、新たに「グリーンボンド・フレームワーク」を策定しました。

ANAホールディングス株式会社は、2050年度までのカーボンニュートラル実現に向けて、トランジション戦略を策定しました。中長期の環境目標達成を目指し、以下4つの戦略的アプローチのもと、航空業界における環境対策を推進してまいります。



1. 運航上の改善・航空機等の技術革新	<ul style="list-style-type: none"> 各運航の段階に合わせた燃料節減の推進 国土交通省と連携した航空交通システム革新 次世代低炭素機材の導入など
2. SAF の活用等（航空燃料の低炭素化）	<ul style="list-style-type: none"> SAF 必要量の安定確保： 2030 年に消費燃料の 10%以上を SAF へ置き換え、 2050 年にほぼ全量の低炭素化 国内における SAF 生産量拡大、価格低減、 サプライチェーンの整備に向けた官民、産業間連携の推進 SAF Flight Initiative の普及など
3. 排出権取引制度の活用	<ul style="list-style-type: none"> 短中期のみ一時的な措置として取り入れ、2050 年度までに排出権取引制度に依存せずに実質ゼロを目指す
4. ネガティブエミッション技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> DAC 等、CO₂ を回収・吸収、貯留・固定化する技術の活用

CO₂ 排出量の「削減」に向けて、その戦略の中核となるのは SAF です。航空機の運航上の改善や航空機等の技術革新の導入を進めながら、2030 年には消費燃料の 10%以上を SAF へ置き換え、2050 年には消費燃料のほぼ全量を低炭素化していく予定です。2022 年 4 月には「SAF の導入促進に向けた官民協議会」がスタートいたしました。ANA は今後も SAF 生産量拡大、価格低減、サプライチェーンの整備に向けた官民、産業間連携等を推進してまいります。そして SAF Flight Initiative の普及を通じて、貨物輸送や社員の出張等でご利用いただくお客様の CO₂ 排出量 (SCOPE3) の削減に寄与しながら、各社の企業価値向上と SAF の量産・普及を目指し、経済と環境の好循環を生み出します。

また、ANA は主要航空機メーカーと先端技術の開発やインフラ整備に関する共同研究プロジェクトに関する基本合意書 (MoU) を締結しました。

エアバス社とは、水素航空機の開発およびインフラ整備に関する共同研究プロジェクトに関する基本合意書 (MoU) を締結しました。現時点では水素・電動航空機の導入は戦略に含んでいませんが、航空機メーカーと協力し、先端技術およびグローバルエコシステムの情報をタイムリーに入手することで、環境目標達成に向けて幅広い選択肢の確保に取り組んでまいります。

ボーイング社とは、日本における持続可能な技術開発の協業に関する基本合意書 (MoU) を締結し、電力・ハイブリッド・水素など先進の推進システム開発に向けて協力をしてまいります。

一方、上記対策では削減しきれない CO₂ への対応策として、DAC 等、国内外で研究開発が進められている大気中から CO₂ を回収・吸収するネガティブエミッション技術の活用による CO₂ の「除去」にも積極的に取り組み、2050 年度までに排出権取引制度に依存せずに実質ゼロ (カーボンニュートラル) を目指します。

なお、これらの戦略の実行を目的とした資金調達を行うために、グリーンボンド・フレームワークを策定しました。本フレームワークについて、国際資本市場協会 (ICMA) のグリーンボンド原則 (GBP) 2021 および環境省のグリーンボンドガイドライン (2022 年版) との適合性に関する [第三者評価](#) を株式会社日本格付研究所 (JCR) より取得しています。本フレームワークに基づくグリーンボンドの発行時期、発行額等は、金利動向等を踏まえて今後決定します。

<本フレームワークにおける調達資金の用途>

- ・ SAF の購入
- ・ SAF の調達量拡大につながる出資・投資
- ・ ネガティブエミッション技術の活用のための出資・投資

ANA グループは、日本の航空会社として初めて SAF を定期便で使用する等、さまざまなステークホルダーと連携しながら事業の脱炭素化に先手を打って取り組んでまいりました。今後も世界における地球環境と気候変動に関する動向を注視しながら航空業界の脱炭素化と持続可能性を追求し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

1. SAF : Sustainable Aviation Fuel の略称であり、バイオマスや廃食油、排ガスなど原材料の生産・収集から、製造、燃焼までのライフサイクルで CO₂ 排出量を従来燃料より大幅に削減し、既存のインフラをそのまま活用できる持続可能な航空燃料です。
2. ネガティブエミッション技術 (NETs : Negative Emissions Technologies) : 大気中から CO₂ を永続的に除去し、CO₂ の排出量をマイナスにする仕組み。DAC (Direct Air Capture) は、大気中の CO₂ を直接回収する技術を指します。

本プレスリリースは、当社グループのトランジション戦略の策定と当社の証券発行に関する情報の公表を目的に作成されたものであり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

ANA ホールディングス株式会社 広報・コーポレートブランド推進部 03-6735-1111